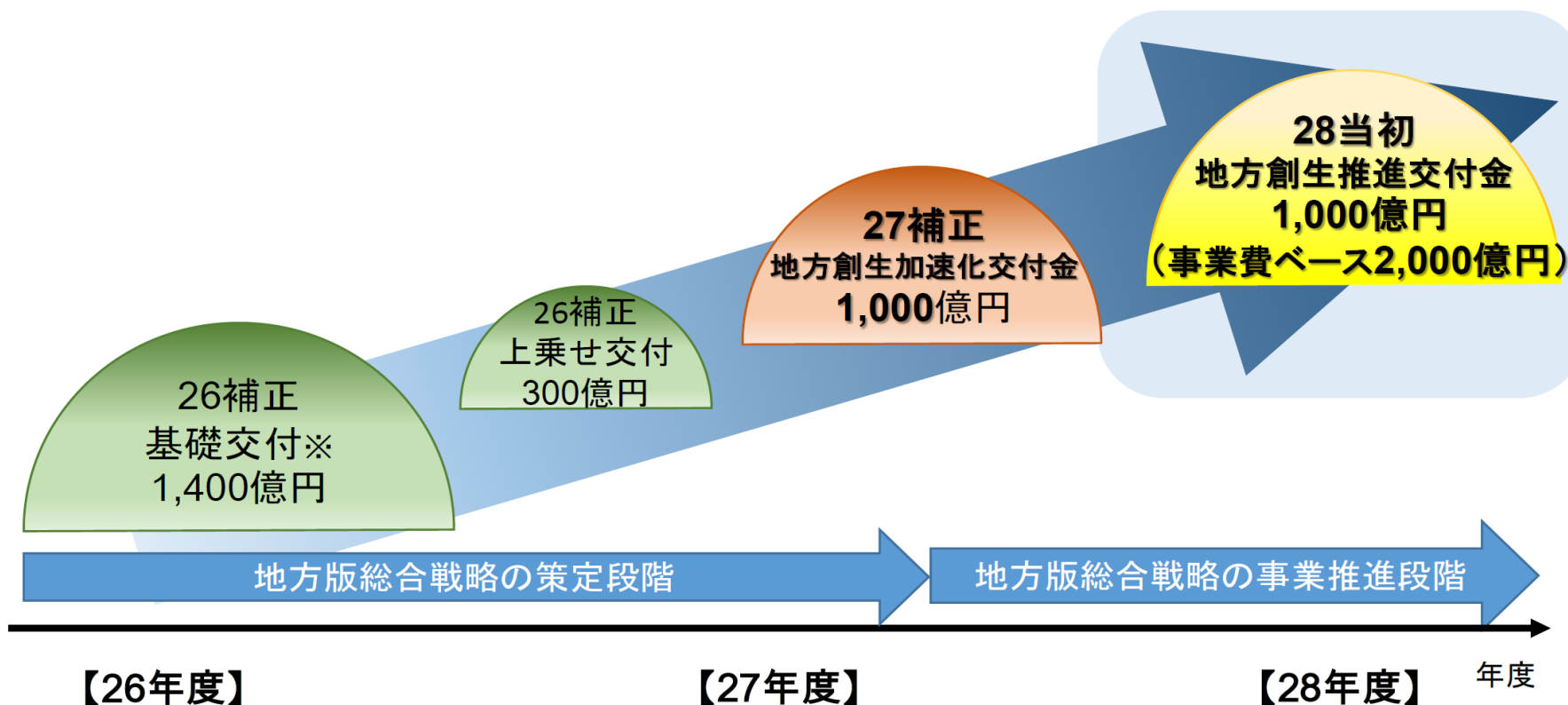


## 現在の地方創生交付金事業について



## 地方創生関係交付金の概要（イメージ）

- 自治体の自主的・主体的な取組で、先導的なものを支援
- KPIの設定とPDCAサイクルを組み込み、従来の「縦割り」事業を超えた取組を支援



※ 人口、財政力指数等の客観的基準により交付

## ◎地方創生交付金事業の柱

1. 南魚沼版CCRC
2. 学びの郷南魚沼プラン
3. グローバルITパーク
4. 中越文化・観光産業支援事業による歴史資源を活かした観光振興

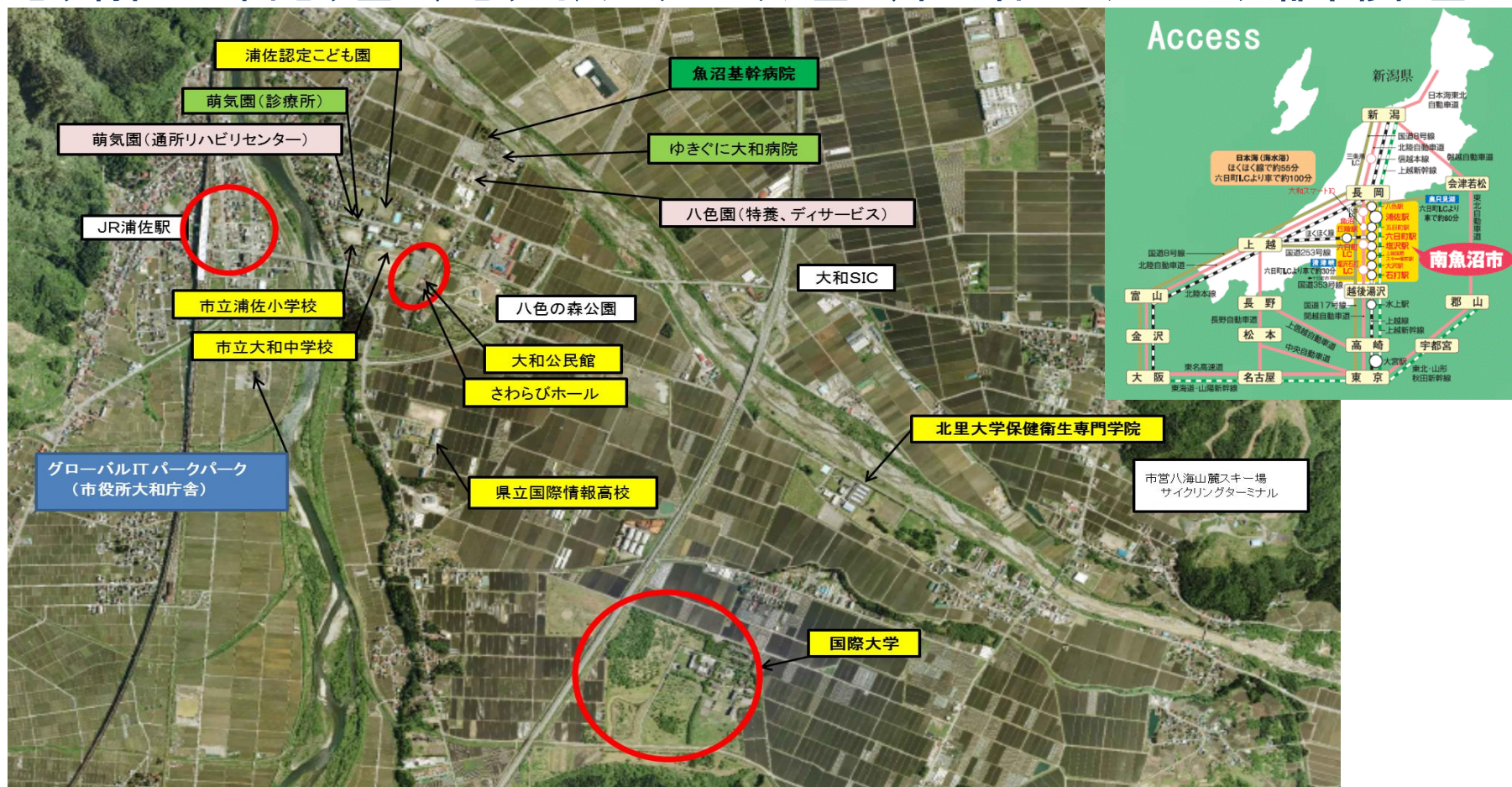


# 南魚沼版CCRC構想

## カレッジリンク・新設移住型



◇地域特性：田園地域型 ◇地域的広がり：エリア型 ◇住み替えパターン：大都市移住型



## 生涯活躍できるまち

# 南魚沼版CCRC構想

### 南魚沼版CCRC構想とは？

南魚沼市ならではの特色ある地域資源との密接な連携を強みとして、東京圏などの現役を含むアクティブな中高年齢者が元気なうちに移り住み、医療、介護サービスや健康づくりの提供体制が確保された中で、安心して暮らし。地域において新たな産業の創出や雇用を生み出す仕組みづくりとして進めています。

### 南魚沼版CCRC構想の特徴

産業振興、教育環境の向上、

健康のまちづくりなどを共働で進める人材として移住

従来の高齢者施設		南魚沼版CCRC
要介護状態になってから居住	居住の時期	健康時から居住し、居住後も健康維持活動に意欲的に取り組む
医療・介護サービスの受け手	高齢者の生活	中高年齢者を対象とし、地域で仕事、社会活動、生涯学習などに積極的に参加 コミュニティを共創
住宅内で完結し、地域との交流がない	地域との関係	地域に溶け込んで、多世代・多文化と交流・協働 まちづくりの人材として活躍

規模：段階的に200戸400人（第1期50戸、第2期50戸、第3期100戸）

位置：八色の森公園周辺を想定



### 選定のポイント

#### ●移住者のニーズから

立地希望は買い物などの日常生活に便利な場所が最多

#### ●国土交通省「健康・医療・福祉のまちづくり」を市民とともに輝き続ける人生を送るには、基本的な身体活動が確保できる住環境整備が必要

＝生活、医療や介護に係るサービスへのアクセスが適度な距離の範囲内（徒歩圏内）に揃っていることが重要

「生活機能と体力の維持」という土台（＝「健康」、「元気」で）ってこそ、初めて「+α」の生活が成立

「輝く」ための「前提条件」ともいえるべき「まちづくり」のスタートライン  
何でもそろった施設内に住むと早い段階で「要支援・要介護」になるリスクを負うことにビジネスチャンスも消失し、南魚沼市としての基本的市民サービス自体の水準低下にも繋がりがかねない

# 南魚沼市の強み

## 強み① 東京圏から近い



【上越新幹線】  
 〈東京駅から〉  
 越後湯沢駅まで：約1時間20分  
 浦佐駅まで：約1時間30分

【関越自動車道】  
 〈練馬ICから〉  
 塩沢石打ICまで：  
 175.5km 約2時間00分  
 六日町ICまで：  
 186.9km 約2時間05分  
 大和SICまで：  
 198.3km 約2時間15分



魚沼盆地 南魚沼産コシヒカリ



市内のスキー場

## 強み② 四季の彩り豊かな自然・観光資源

彩り豊かな四季の風景。



### 豊富な観光資源



温泉

三田街道塩沼田 秋の通り

魚沼の里

るるぶ 南魚沼

## 強み③ 特色ある教育機関



理念:「国際社会で活躍できる高度な専門的知識を持った職業人の育成」  
 ・国際大学 (IUJ) は、1982年に日本初の大学院大学として誕生  
 ・開学当初からすべての授業が英語、9月入学制を導入し、原則としてキャンパス内での全寮制  
 ・世界に門戸を開き、学生の約85%が外国人留学生⇒日本人学生が多数派でない環境が特徴  
 ・国際関係学研究科と国際経営学研究科の2研究科  
 ・教育・研究体制、学生の受け入れ・送出しなど、多くの面で高評価  
 ・2013年4月には、学校法人明治大学と系列法人の協定を締結  
 互いの教育資源を共有、連携することで、世界トップクラスのグローバル・ユニバーシティを目指す



世界各国から集う学生たち



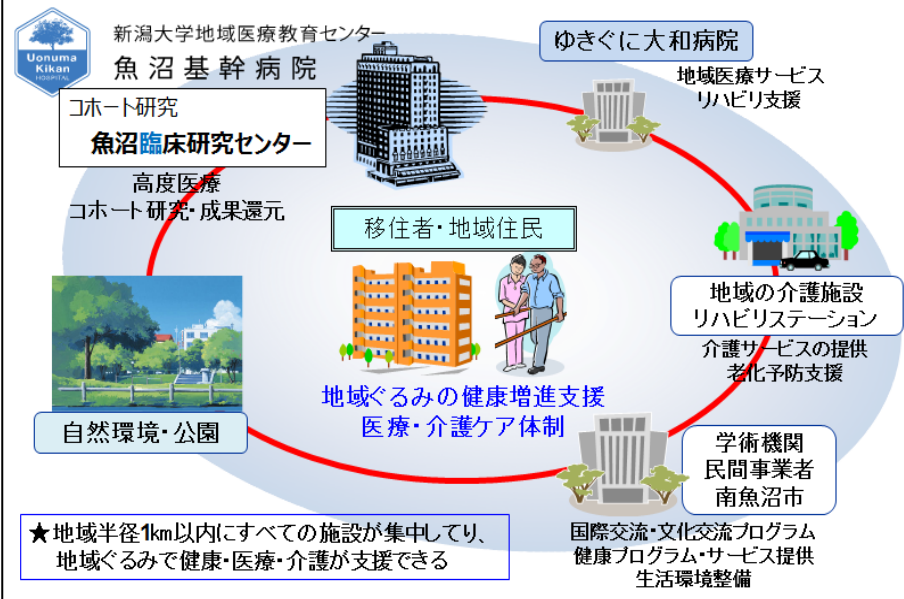
## 北里大学保健衛生専門学院



北里大学保健衛生専門学院は、北里柴三郎博士を学祖とし、医療を中心とした生命科学の教育機関(1大学7学部と2専門学校)と4つの大学病院を擁する学校法人北里研究所に属する学校で、これまで多くの有用な人材を医療と健康のスペシャリストとして社会に送り出してきました。

3学科1専攻科医療系国家資格  
 臨床検査技師 80人 管理栄養士 80人  
 看護師&保健師 80人 臨床工学技士 30人

## 強み④ 健康長寿のまちづくり



# 健康・医療・福祉まちづくり (国土交通省資料イメージより)

## CCRCをモデルに地域包括ケアシステムの構築

【別紙】「健康・医療・福祉まちづくり」のイメージ

### 住宅地イメージ

【徒歩圏内に確保する都市機能の集約】  
 ・コミュニティセンターや集会所、児童遊園地やクラブ等の福祉・交流拠点に集約する。これにより、徒歩圏内に集約して一体的に機能させる。  
 ・保育所や子育て支援施設と介護施設等を一体的に配置することで世代間の交流を生み出す。

【日常生活圏内に確保する都市機能の集約】  
 ・地域包括ケアセンターや行政サービス拠点をこのエリアに集約して一体的に機能させる。  
 ・公共の交通機関の利便性とともに、各地域の複合利用や合築、空き店舗・空き家等の活用促進の取組により、生活圏の確保に係る初期コストを削減し民間事業者の参入を支援する。

【日常生活圏内に確保する都市機能のうち集約して一体的に機能させる。徒歩圏内に確保する都市機能については、徒歩30分以内でサービスが受けられるよう集約する。また、地域相互の連携も図る。このうち利用者が訪れる施設については、徒歩・自転車または公共交通によるアクセスを確保する。



予定地の半径2kmエリア内  
 上越新幹線浦佐駅、大和sic

国際大学、北里大学保健衛生専門学校、国際情報高校、大和中学校、浦佐小学校、浦佐認定こども園、学童保育大空クラブ、

魚沼基幹病院、市立病院、浦佐診療所、

消防大和分署、

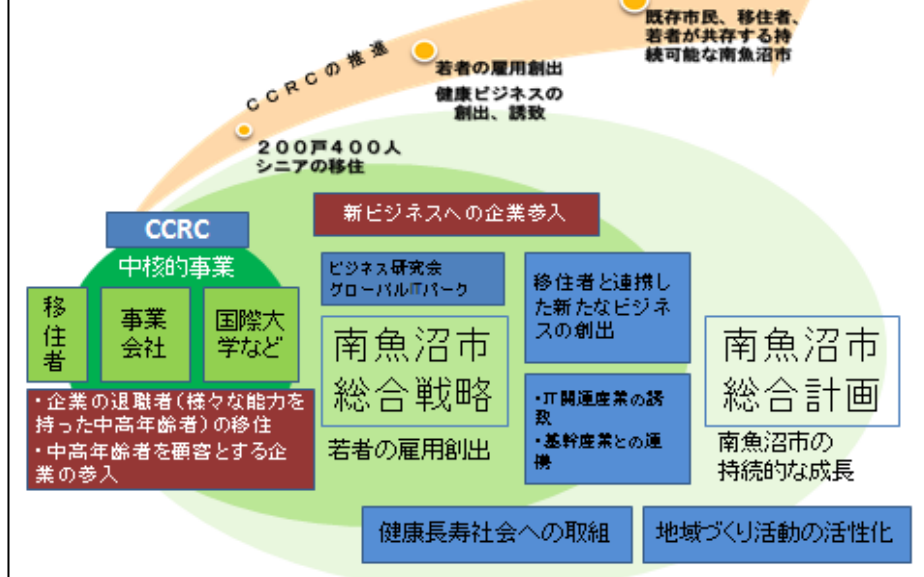
特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、通所型リハビリセンター、

市役所大和庁舎（GTPパーク）、コミュニティホールさわらび、南魚沼市大和公民館

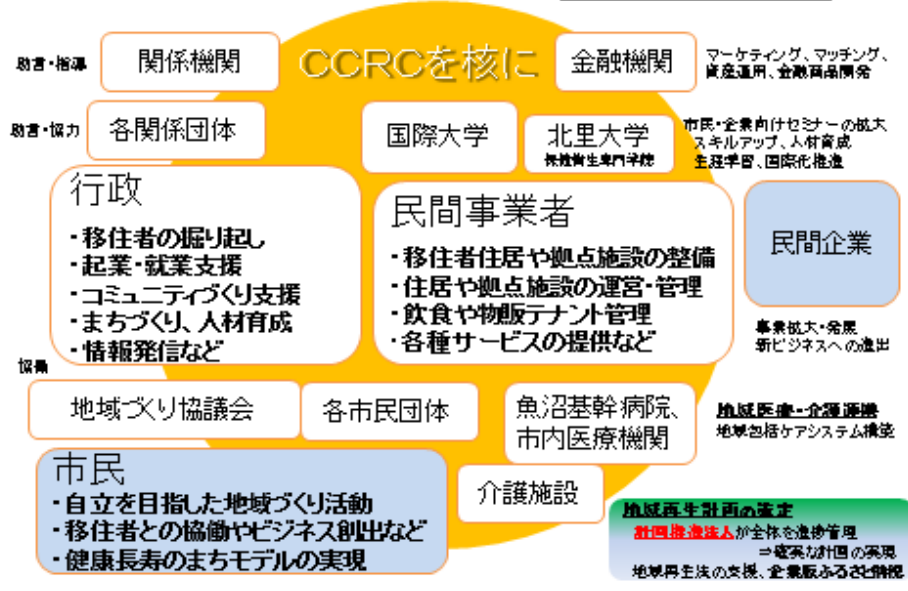
普光寺、浦佐温泉、越後ワイナリー・ブドウ園、コシヒカリ圃場・・・



# CCRCによる南魚沼市の地方創生



# 南魚沼版CCRC構想の進め方 役割分担と連携



# さらに輝く！みんなを輝く！ 南魚沼版CCRCのすがた



# 地域・市民と交流し、一緒に参加し高め合う

## 学びの郷南魚沼プラン 南魚沼市の教育基本計画と連携

### 学びあい、教えあい、伝えあい、そして輝く、わたしと地域

#### 子供 たんけん南魚沼

南魚沼の自然と、そこで人々が築きあげてきた暮らしや歴史・文化を、体験的に理解し、その豊かさを五感で認識する。

地域に興味を持ちさらに深く知り、関わりたくなる気持ちを醸成する。

外国を含む他地域との交流を通じて、互いの地域の価値を共有する。

#### 大人 市民カレッジ

南魚沼の持続的な発展を目指し、市民が互いに支えあうコミュニティを構築する。

地域のひとと自然を出発点に、南魚沼に根ざした技と知識を発展させる。

だれでもいつでも学べる環境を整える。高齢者層と若年層との連携が展開される。

#### お年寄り 幸齢義塾

南魚沼で培ってきた永年の経験や知恵・技を互いに引き出しあい、再生しあい、次世代に共有していく。

高齢者同士の交流、互いの健康増進、意識の活性化維持も図る

### 題材として

**自然**(雪＝遊ぶ、かんじきを作る、利用する他、川＝魚取り、泳ぐ、舟、山＝登る、歩く、木を切る、手入れする、生きもの＝モリアオガエル、ハッチョウトンボ、シナイモツゴなど超1級の生きものたちも)

**農**(コメづくり、田んぼの仕組み、多様な野菜、調理方法、ワラの利用、田の利用の変遷＝歴史への広がり)

**食**(山菜、味噌、豆腐、どぶろく、漬物、ハレの食)

**文化**(山伏、神社仏閣、木食仏)

**伝統工芸**(縄ない、歌舞伎、塩沢つむぎ)

**人**(市民の経験や歩み)

年中行事など

### 学びの仕組み・場

教室・イベント・MOOC(Massive Open Online Course オンラインの公開授業)、J自主ゼミナールなどを組み合わせ、歴史、文化、科学、原語など趣味教養からものづくり、経営、健康講座など実学まで、多様なニーズへ対応。





# GLOBAL IT Park (GIT)

Minamiuonuma 構想



## Global IT Park 南魚沼構想とは

南魚沼市には国際大学(IUJ)という英語で授業を行う非常にレベルの高い大学院があり、世界各国の多くの留学生が学んでいる。その卒業生達の伝手を活用しながらインド・スリランカ等のIT技術先進国の企業を中心に、海外のIT企業を誘致し、南魚沼市に集積させることで、地元企業を中心とした日本企業の生産性を高め産業振興を図ることを目的に実施するものである。あわせて効果的なビジネス機会の創出により誘致企業の発展を促し、魅力的な雇用の場として成長させることで市民の定住率を高めるための事業としたい。2016～2030年までの長期的構想として、段階的に発展していけるような事業モデルを構築するものである。

2016年度はその実験的事業として市役所庁舎を改修し、インド・スリランカ等のITソフトウェア企業を16社誘致する。

その後は、民間資金を呼び込み、新たなITパークを建設し、より多くの多国籍企業を集積させる。この段階においてはソフトウェア企業以外のIT関連企業を呼び込み、高い波及効果を生み出すことを目的とする。

## Global IT Park 南魚沼のタイム・スケジュール

(第1段階) 実験的段階(2016～ ) 16社

南魚沼市大和庁舎の空きスペースを改修し、IT先進国であるインド・スリランカの企業を中心に16企業を誘致し、ビジネスを開始する。

(第2段階) インテンシブ(集約的)成長期(2016～2020) 70社～

民間資金を呼び込み、新たにITパークの建設を目指し、ソフトウェア・ソリューションに特化したソフト・ウェア開発会社を誘致する。

(第3段階) インテグレート(統合的)成長期(2020～2025) 250社～

民間資金を活用しながら、ITパークの増設を目指し、前段階で事業を開始した企業のさらなる拡大、ソフト・ウェア・ソリューションの展開や他のIT関連事業の誘致を目指す(ハード・ウェア、ミドル・ウェア)。

(第4段階) ダイバーシティ(多樣的)成長期(2025～2030) 350社～

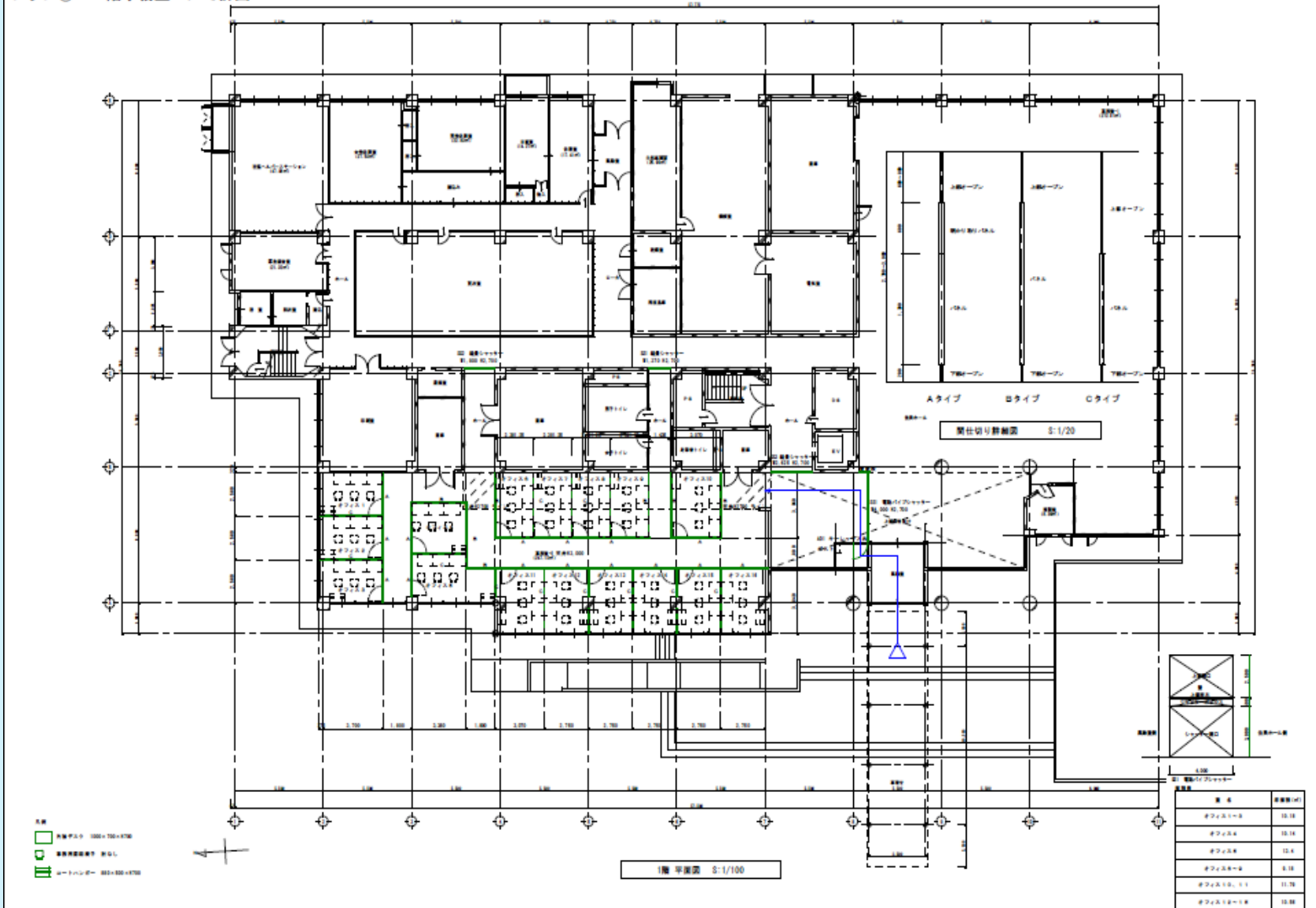
前段階の発展をさらに拡大し、次世代のITソリューションを活かしてIT企業以外の産業への波及を目指す。

# Global IT Park 南魚沼(第一段階)の周辺図



# Global IT Park南魚沼の第一段階の平面図

プラン① 1階事務室-2にて計画



南魚沼市大和庁舎1階

# Global IT Park南魚沼の第一段階のイメージ図



## 中越文化・観光産業支援機構（仮称）による 歴史資源を活かした観光振興

ながおかし、さんじょうし、かしわざきし、おぢやし  
新潟県長岡市、三条市、柏崎市、小千谷市  
とおかまちし、みつけし、つばめし、うおぬまし、みなみうおぬまし  
十日町市、見附市、燕市、魚沼市、南魚沼市  
やひこむら、いずもぎきまち、つなんまち  
弥彦村、出雲崎町、津南町

### 事業の背景・概要

- 中越地域は、上杉家、良寛和尚、山本五十六等の「歴史的価値」、紅葉、雪等の「自然」、花火、錦鯉、闘牛、織物等の「国宝・重要文化財」、米、酒に代表される「食文化」を有している。
- しかし、このような文化資源を有する地域でありながら、これらが来訪者に魅力的に伝えることができるコンテンツとして整備されておらず、交流人口の増加についての課題がある。
- 今回、中越地域の近隣12市町村が連携し、地方公共団体、商工会、文化関係団体、食の提供事業者等の多様な主体の参画の下、文化観光産業に関する総合的なマネジメント・プロデュースを行う「中越文化・観光産業支援機構（仮称）」を立ち上げ、広域観光プロモーションの実施や広域周遊ルートの開発を行うことで交流人口の拡大を図る。

### 重要業績評価指標（KPI）等

- 【29年3月】連携市町村への観光入込客数の累計：2,773万人  
（平成26年観光入込客数：2,641万人）
- 【32年3月】連携市町村への観光入込客数の累計：2,949万人

### 先駆性に係る取組（官民協働、政策間連携、地域間連携、自立性）

#### 【官民協働】

- 行政は、民間事業者や金融機関等関係者の総合調整と、パイロット事業の立ち上げ時の財政支援を行う。
  - 民間事業者は、パイロット事業の実施会社の設立、出資や人材派遣による円滑な運営に向けた支援を行うとともに、交流（観光）商品や文化研修プログラムの開発を通じた誘客事業を進めていく。
  - 金融機関は、投融資による事業構築支援、企業に関するノウハウ提供、商談会の開催の支援を行う。
- ※長岡市は北越銀行と地域密着型包括連携協定を締結済み。

#### 【地域間連携】

- 中越地域の近隣12市町村が連携することで、1自治体のみで完結しない豊富な歴史・文化資源を活用し、訪れる人の目的、テーマに応じた的確にコンテンツを整備することで、地域の新たな文化観光産業の振興及び雇用の確保につなげる。

#### 【自立性】

- 当面の間は、行政による財政支援を行うが、5年後には観光収入を原資とする観光事業者等からの負担金で事業運営することを目指す。
- パイロット事業の実施会社に対しては、初期費用のみを支援し、その後の経営は事業収益で継続していく。

### 参考となる ポイント

- ①中越地域の近隣12市町の観光戦略づくりとその実施を観光産業支援機構（仮称）に任せることで、責任を明確にした事業推進主体が形成されている。
- ②来訪者の行動を総合的にマネジメント・プロデュースする体制を構築し、交流人口増加と一人当たりの観光消費額の増加による質の向上に取り組もうとしている。
- ③観光事業者等からの負担金による自主財源により、自立への道筋が立てられている。